

世界の医療団は17ヶ国に活動拠点をあり、70以上の国や地域でプログラムを実施しています。



世界の医療団

2023年度 年次報告書

2023年1月1日～12月31日

「誰もが治療を受けられる未来を」

“POUR UN MONDE OÙ CHACUN PEUT ÊTRE SOIGNÉ”

●日本事務局 理事

(五十音順)※2024年3月末時点

石原 恵	看護師
大浦 紀彦	形成外科医
ガエル・オスタン(理事長)	PMC株式会社代表取締役
佐藤 直	ワーブジャパン株式会社代表取締役
瀬古 篤子	株式会社ヴィジョン・エイ代表取締役
バトリック・ダビッド(副理事長)	麻酔科医
日野 慶子	東京都立多摩総合医療センター 精神神経科医長
見山 謙一郎	(株)フィールド・デザイン・ネットワークス 代表取締役CEO
横森 佳世	東京農工大学グローバル教育院准教授

●スタッフ紹介

(五十音順)※2024年3月末時点

阿部 さやか	ファンドレイザー(ドナーリレーション)
石井 夕美	総務・経理マネージャー
ヴァンサイトー	プロジェクトオフィサー(ラオス事業)
小川 亜紀	プロジェクト・コーディネーター(ラオス事業)
糟谷 知子	広報・証言担当
木田 晶子	メディカル・コーディネーター(ロヒンギャ事業)
古賀 智子	マーケティングアシスタント
サルワル・カマル	現地運転手(ロヒンギャ事業)
シボン・シタボンサイ	プロジェクト・マネージャー、医療専門家(ラオス事業)
セング・ソスバン	ハウスキーパー、セキュリティオフィサー(ラオス事業)
高野 夏樹	ファンドレイザー(ドナーリレーション)
タワットサイ・ボムヴォンガイ	プロジェクトオフィサー(ラオス事業)
ティックター・カムヴンフェン	会計・アドミンアシスタント、プロジェクトアシスタント(ラオス事業)
ティンカム・マニボン	現地運転手(ラオス事業)
寺村 滋	マーケティング・マネージャー
トゥラバン・クンカムディー	プロジェクトオフィサー(ラオス事業)
中嶋 秀昭	海外事業プロジェクト・コーディネーター
ファ・チョングチャイムス	プロジェクトオフィサー(ラオス事業)
ブントム・タマチャー	会計・アドミンオフィサー(ラオス事業)
ベンコング・ソクヴァンサイ	現地運転手、プロジェクトオフィサー(ラオス事業)
松井 智美	ファンドレイザー(個人支援者担当)
米良 彰子	事務局長

●沿革

- 1995年 阪神淡路大震災の発生を受け、フランスのNGOのメドゥサン・デュ・モンド(Médecins du Monde)が神戸で活動。世界の医療団日本を設立
- 1996年 「スマイル作戦」に与座院医師が日本人として初参加
- 2000年 特定非営利活動法人(NPO)の設立認証を獲得。登録名を「メドゥサン・デュ・モンド ジャパン」とする
- 2007年 認定特定非営利活動法人の認定を受ける。翌年以降の税法上の優遇措置(寄付金控除等)の対象となる。
- 2010年 初めての国内プロジェクトとして、東京プロジェクト(後のハウジングファースト東京プロジェクト)を開始
- 2011年 東日本大震災発生を受けて、岩手県大槌町へ。団体として初めての国内緊急支援を行う
- 2012年 ラオスで小児医療強化プロジェクトを開始。世界の医療団日本として初めての単独の海外事業
- 2017年 ロヒンギャ緊急医療支援を開始

2023年度年次報告書

発行人	ガエル・オスタン
発行	2024年4月
発行所	世界の医療団(認定NPO法人)
特定非営利活動法人	メドゥサン・デュ・モンド ジャパン Médecins du Monde Japan

〒106-0044 東京都港区東麻布2-6-10麻布善波ビル2F
TEL: 03-3585-6436 FAX: 03-3560-8073
E-mail: info@mdm.or.jp
ホームページ: <https://www.mdm.or.jp>
Facebook: <https://www.facebook.com/mdmjapan>
Twitter: https://twitter.com/mdm_jp
Instagram: <https://instagram.com/mdmjapan>



©Huseyin Aldemir

トルコ・シリア地震の被災者に寄り添う



支援者の皆さまへ

日頃より世界の医療団の活動にご理解とご支援を賜り、誠にありがとうございます。

2023年5月、世界保健機関(WHO)は3年3ヶ月に及んだ新型コロナウイルス感染症に対する緊急事態宣言の終了を発表しました。以降、制限を受けていた社会・経済活動も徐々に戻り、国境を越えた人々の移動も活発になってきています。

世界の医療団はその使命として、コロナ禍においても災害や紛争、貧困などで弱い立場に置かれている人々に常に寄り添い、医療を届けてまいりました。そのようななかで、2023年は人々の命が脅かされる事態が次々に発生しました。2月には、シリアの紛争を逃れた難民・避難民が多く暮らすトルコとシリアの国境付近を震源とする大地震が発生。10月にはイスラエルとハマスの軍事衝突を契機に、イスラエル軍によるパレスチナ・ガザ地区への大規模な攻撃が始まりました。また、これまでの数々の人道上の危機も収束の兆しが見えないままです。ウクライナ侵攻は3年目に突入し、ロヒンギャ難民危機は7年が経過しようとしています。報道されることの少ないギリシャ・レスボス島の難民問題、マダガスカルの干ばつによる栄養危機など、各地で課題が山積しています。日本国内でも例外ではありません。物価高騰などにより日々の暮らしに困窮する人々が増えています。世界で発生しているこのような危機においては、平時でも脆弱な立場にあった人々が最も大きな影響を受けるため、命とところを守る医療が必要とされています。

誰もが医療につながり、人間としての尊厳と自由を保つために、私たちは活動しています。数々の困難に直面しても、多くの方々、企業・団体の皆さまのご支援によって、活動を進めることができました。どうか2024年も引き続きのご支援をお願いいたします。

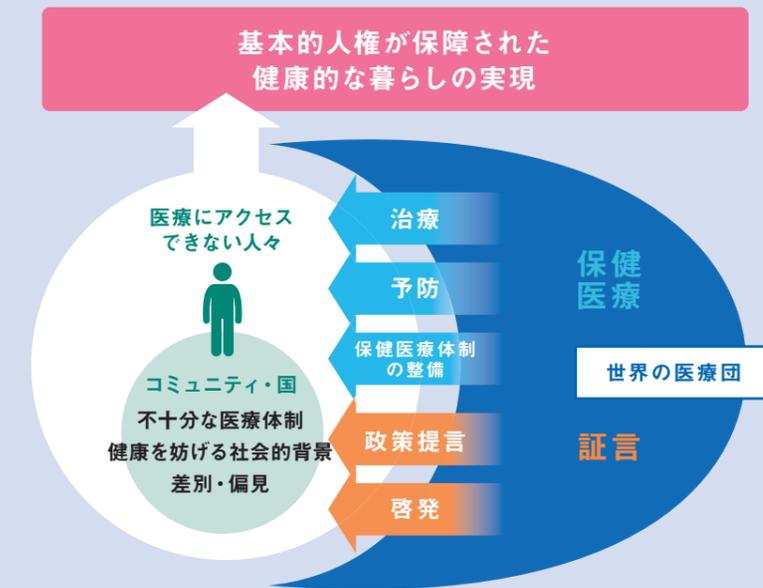
世界の医療団 日本
理事長 ガエル・オスタン

最も支援の届きにくい
人々のもとへ
「誰ひとり取り残さない」



世界の医療団の活動

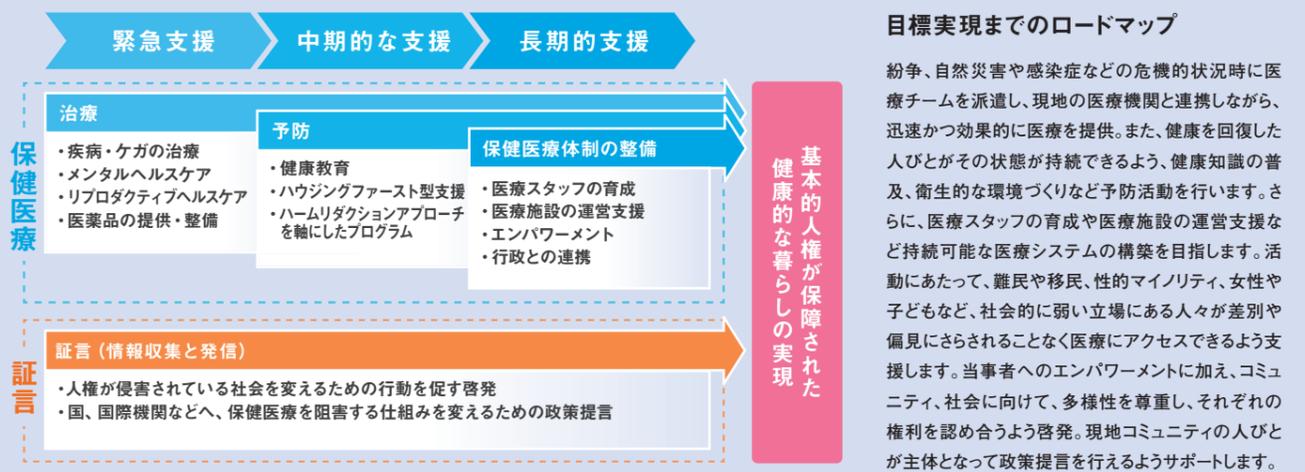
誰もが自ら持つ権利として保健医療サービスへアクセスでき、
心身ともに健康的な暮らしが実現する世界をつくります



世界の医療団の使命

保健医療 世界中どこであっても、誰であっても、公平で適切な保健医療サービスへのアクセスは生まれながらに有する権利です。国籍、人種、民族、思想、宗教などのあらゆる壁を越え、心身の治療に加え、持続して健康な状態を保つための予防や健康知識の普及、公的な医療基盤の構築などを中心に、保健医療・公衆衛生分野において活動しています。

証言 必要な保健医療サービスにアクセスできない原因、保健医療支援を実施する上で障壁となるもの、人権を侵害する現状や事実について証言します。課題に直面する人びとの声や現状を伝える素材を集め、多くの人々に向けて情報発信と啓発を行い、課題の解決のために行動を起こすことを促します。また、保健医療へのアクセスを阻む状況を根本的に改善するため、政策提言を行い、仕組みを変えるよう働きかけます。



活動理念

- 社会正義** 医療サービスへの平等なアクセス、基本的人権の尊重、連帯意識の共有を希求します。
- 自立支援** すべての人びとが自己の健康に対する当事者となり、自らの権利を行使できるよう支援します。
- 独立性** すべての政治、宗教、経済による権力、利害から独立しています。
- コミットメント** 献身的に、そして高いスキルと専門知識、職業倫理を備えたプロ集団として活動します。
- バランス** 国内外での活動、緊急と中長期プログラム、医療と周辺サービス、官民の資金、それぞれのバランスを尊重します。

医療支援

世界の医療団のネットワークでは、世界各地で紛争や暴力、自然災害、貧困に苦しむ人々の命と健康を守る活動に力を注ぎました。

このころのケアのプログラムを受けた子どもたち(パレスチナ・ガザ) © MdM Spain

ギリシャ レスポス島

島内の医療を途絶えさせない
緊急に受診を必要とするケースにも柔軟に対応

エーゲ海北東部に位置するギリシャ領レスポス島は、母国を追われ、ヨーロッパを目指す人々が海を渡ってたどり着く島です。2023年に入り、海のルートでギリシャに入境する人の数が増加する一方、ギリシャ領土への上陸を阻止され、強制的に海に戻される事例も発生しました。島内の難民キャンプの衛生状態は非常に悪く、医療体制も不十分です。医療サービスについては、2022年2月にギリシャ保健省による提供が終了して以降、世界の医療団をはじめNGOが全面的に支えています。世界の医療団は難民キャンプ内のすべての小児医療と妊産婦のケアを担っています。ギリシャ国内で難民が医療を受けるための申請手続きが完了していない妊産婦が、緊急に受診を必要とするケースもあり、公立病院では対応できないため、民間の医療施設に搬送する手続きを行うなどしました。



難民キャンプでの診療の様子 © MdM Greece

パレスチナ・ガザ地区

突如始まった衝突
犠牲になっているのは民間人
緊急医療支援を開始

2023年10月7日、パレスチナ・ガザ地区を実効支配する武装組織ハマスがイスラエルを攻撃したことにより、イスラエル軍は大規模な空爆で報復を開始しました。ガザはこれまでも幾度もパレスチナとイスラエルの衝突の場となり多くの犠牲者を出しています。ガザでは病院が攻撃の対象となり、また、負傷者が病院に押し寄せたため、医療システムはほとんど機能を失いました。すでに現地で活動していた世界の医療団は、直ちに緊急医療支援体制を整え、難民キャンプで暮らす2,400人分をカバーする400個の衛生キットを配布するなどしました。今後は現地の状況に注意しながら、必要とされるころのケアをはじめ、現地医療体制のサポートや復興支援を実施する予定です。

20回
市民救助隊への
研修

市民救助隊への
研修

167人
応急手当の重要性の
啓発を受けた人

応急手当の重要性の
啓発を受けた人

絶え間ない攻撃で破壊された街



マダガスカル

頻発する自然災害による食料不足
移動診療車の巡回で栄養状態の悪い人々を
医療につなげる

アフリカ大陸の東にあり、世界で4番目に大きい島国、マダガスカル。島の南部はここ数年間、過去40年で最悪といわれる大規模な干ばつに見舞われています。また、東部では、2022年から2023年にかけて巨大なサイクロンが3度にわたって島を直撃し、34万人が被災、7万6000人が避難するなど、壊滅的な被害を受けました。2023年、世界の医療団は6つの地域圏で事業を実施しました。頻発する自然災害による食料不足が発生しており、急性栄養失調状態にある人々に無料で診療を提供。また、移動診療車で巡回し、栄養状態の悪い人々を早期発見し、治療につなげることに努めました。また、サイクロンの被害にあった医療施設に医薬品や医療資機材の提供を行い、現地医療の早期復旧を目指しました。



移動診療車で巡回し、赤ちゃんを診療 © MdM France



乾燥した土地が続き、農作物を育てることが困難 © MdM France

10万324人
受益者総数

受益者総数

335人
研修を受けた医療従事者

研修を受けた医療従事者

43ヶ所
サポートした医療機関

サポートした医療機関

コロンビア

長期にわたった内戦と今も続く衝突
へき地へ医療を届けるのは移動診療船

1960年代以降、半世紀以上も内戦が続いていたコロンビア。2016年に和平合意が成立したものの、長期にわたる内戦の間に各地で発生した武力組織は、今も民間人を巻き込んで衝突を繰り返しています。世界の医療団は特に支援が必要な農村部において、医師、心理士、ソーシャルワーカー、栄養士などの専門家からなるチームを派遣して活動しています。交通アクセスが困難な場所では、川を使い、移動診療船でコミュニティを巡回。一般的な診療のほか、妊婦の定期健診、子どもの栄養失調などに対応しています。また、内戦の記憶や今も続く衝突により、人々はこころのケアを必要としており、心理社会的支援にも注力しました。



ボートを使い、岸から離れた川に停泊する移動診療船まで行く © Israel Fuguemann



移動診療船で妊産婦健診を受ける女性 © Israel Fuguemann

2万5865回
診療

診療

5757回
心理社会的支援

心理社会的支援



世界の医療団 日本は、日本を含むアジア3ヶ国で医療アクセス強化を目指すとともに、ウクライナ侵攻、トルコ・シリア地震、パレスチナ・ガザ地区での戦闘における緊急医療支援を行いました。

©Mdm Japan

ロヒンギャ難民コミュニティ支援プロジェクト

ウクライナ

紛争の長期化により高まるこころの健康のリスク 移動診療車には専門のスタッフが同乗して地域を巡回

2022年2月24日、ロシアによるウクライナ侵攻が始まりました。東部を中心に絶え間ない攻撃が続いています。特に前線地域の被害は甚大です。医療施設も攻撃の対象となり、十分な医療を提供できる状態にありません。また、紛争の長期化による影響も出てきています。トラウマとなる出来事に加え、先が見えないことや家族が前線に駆り出されるかもしれないことへの不安、ミサイル攻撃に遭うかもしれない恐怖など、人々のこころの健康へのリスクが高まっています。世界の医療団は、攻撃を受けて機能を失った病院に代わって移動診療車による地域の巡回を行っています。移動診療車には臨床心理士が同乗し、こころのケアも提供しています。今後さらにニーズが増大することが予想されるこころのケアに対応するため、現地の医療従事者への研修も行っています。また、破壊された医療施設を使用できるようにするため、修復や医療資機材の提供も実施しました。



©Mdm Greece
医療資機材などの物資を提供



トルコ・シリア地震

震源地で活動していた世界の医療団は 直ちに緊急支援活動を開始。包括的な医療とともに、 弱い立場にある人々へは重点的に支援

2023年2月6日、トルコ南部とシリア北西部を震源とするマグニチュード7.8の地震が発生、余震が数週間にわたって続きました。この地震により5万8000人以上が死亡、数百万人が避難し、1800万人以上が被災、建物やインフラは広範囲にわたって破壊されました。2016年よりトルコとシリアの国境付近でシリア紛争の難民・避難民に医療やサービスを提供していた世界の医療団は、地震発生後、がれきの下にいる人々の救出を行うなど、直ちに緊急支援活動を開始しました。診療をはじめ、医薬品や衛生キット、分娩セットなどの配布、性と生殖に関する健康サービスや心理社会的支援の提供など、包括的な医療支援を実施。その他、支援が届きにくい場所へこちらから出向いて医療を届ける移動診療車の巡回と、最も弱い立場にある女性と子どもが安心・安全に過ごせる場所の運営を行っています。



©OLIVIER PAPEGNIES
被災した子どものケア(トルコ)



©Mdm Türkiye
クリニックでの診療(シリア)

[トルコ]

3万3450回

診療

7100人

心理社会的支援

[シリア]

42万5321回

診療

3万9個

避難者に配布したキット

バングラデシュ(ロヒンギャ)

長期化する難民キャンプ生活による非感染性疾患の予防対策 現地の人々が自らの健康を守るための包括的かつ持続発展的な体制づくりを目指す

2017年8月に始まったミャンマー軍の武力弾圧。多くのロヒンギャが隣国バングラデシュに逃れ、現在も97万人以上が難民キャンプで生活しています。難民キャンプでは生活習慣の変化により、非感染性疾患の予防対策が課題となっています。また、難民キャンプがあるバングラデシュにおいても、



©Mdm Japan
保健ボランティアによる集団健康教育

近代化にともなう疾病の変化や平均寿命が延びていることより、全死因における非感染性疾患の占める割合が年々増加。難民キャンプだけでなく、ホストコミュニティでも予防対策が求められていることがわかりました。このような背景により、世界の医療団は2021年から非感染性疾患の予防対策事業を実施。20歳以上の成人を対象に、保健ボランティアが非感染性疾患への予防行動をとるための働きかけを行っています。また、非感染性疾患に罹患している人には、その疾患や生活習慣に応じた個別の健康教育を行い、行動変容を促しています。同時に、現地医療施設へ医療資機材の提供を行うことで検査・診療体制の整備と、医療従事者へ日常的なモニタリングを通じた助言や指導を行って診療の質の向上を図りました。

ロヒンギャ難民キャンプ

ホストコミュニティ

3264人

非感染性疾患に関連した
一般健康教育を受けた人

992人

非感染性疾患の罹患者のうち
個別健康教育を受けた人

3890人

非感染性疾患に関連した
一般健康教育を受けた人

841人

非感染性疾患の罹患者のうち
個別健康教育を受けた人

ラオス

妊産婦死亡率と5歳未満児死亡率が 高いフアパン県。母子保健サービスへの アクセス改善に多角的にアプローチ

世界の医療団が活動するラオス北東部フアパン県は、妊娠・出産、小児医療といった基本的な母子保健サービスへのアクセスに困難を抱え、ラオス国内でも妊産婦および5歳未満児死亡率が高い地域です。人々の健康や医療への理解不足、また、医療施設までへ行くための物理的な障壁がアクセスの妨げとなっています。加えて、医療従事者の能力不足により、十分な質の医療を提供できないという問題もありました。世界の医療団は、母子保健サービスの質を高め、また、その利用を促進するため、人々への健康教育活動、医療従事者の能力・技術力の強化、保健行政の運営・マネージメントの能力強化を行っています。2023年は、健康教育活動で使用される教材を専門学校や企業と連携してわかりやすく作り直すなど、理解促進のための工夫もしました。



11人

研修を受けた母子保健サービスの
郡トレーナー

30村219人

村落健康普及委員会メンバーで
研修を受けた人



©Mdm Japan
妊産婦健診の様子

ハウジングファースト東京プロジェクト

コロナ禍が明けても生活に困難を抱えている人々の数は減少せず 炊き出し医療・生活相談会を月2回実施

ホームレス状態にある人々に対し、まずは安心できる住まいを提供し、そこから医療や福祉、地域での社会生活につなげることを目指す、ハウジングファースト東京プロジェクト。毎月第2・4土曜日に東京・池袋で実施している炊き出し医療・生活相談会の利用者は、2023年は毎回500人を下回ることはなく、医療相談会は、多い日には90人以上が利用しました。世界の医療団は、2010年の活動スタートより医療相談会の運営や全体のコーディネート、行政への提言などを行ってきましたが、2023年11月末でその役割を現場に手渡し、今後はアドボカシー活動を中心に担うことになりました。12月には、セーフティネットが脆弱な難民認定申請者の保護費増額について、外務省ODA政策協議会の場で現状を伝え、改善のための提言を行いました。



©Kazuo Koishi
医療相談会の様子(2023年6月)

証言活動



6月20日に開催した「世界難民の日によせて—シリアの現場から—」



トルコ・シリア地震発生後すぐに被災地へ向かう世界の医療団スタッフ。移動中のバスから現地の様子を動画で伝えた



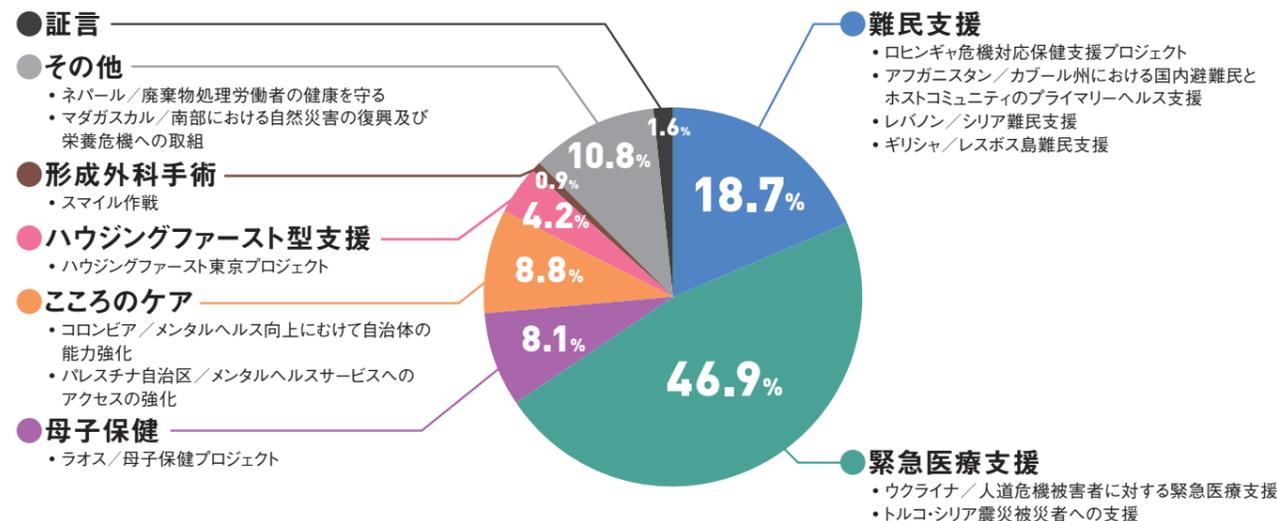
ガザの空爆で自宅を破壊された世界の医療団スタッフが現地の状況を動画で報告した

ウクライナ侵攻、トルコ・シリア地震、パレスチナ・ガザ地区での戦闘など、多発する紛争や自然災害時の緊急支援について、ウェブサイト、SNS、プレスリリースなどで現地の状況や人々の声を詳細に、迅速に発信しました。また、ロヒンギャ難民支援、ラオス地域医療強化プロジェクト、ハウジングファースト東京プロジェクトでは、関心を持ち続けていただくことの大切さと長期支援の必要性を伝えました。オンラインイベントでは、2月に「2022年度活動報告会」を開催したほか、5月に「ウクライナ医療支援活動報告」として現地スタッフから活動報告をしました。また、6月に「世界難民の日に寄せて—シリアの現場から—」、8月に「ジェンダーの視点からみたロヒンギャ難民キャンプ6年」、11月に「多発する人道危機と世界の医療団の活動」を開催。いずれも他団体の方にも登壇いただき、より広い層に世界の医療団の活動を伝えることができました。

●プレスリリース：9本 ●講演・セミナー：8回 ●執筆・寄稿：1件

主なメディア掲載	執筆・寄稿
2/8 クーリエ・ジャポン 難民への「支援疲れ」で揺れる地元コミュニティに寄り添う日本のNGO	時事通信社 e-World Premium 12月号 ロヒンギャ問題、長期化する避難 (中嶋秀昭)
2/21 日本経済新聞 避難長期化の恐れ食料や防寒具の支援急ぐ	
5/5 日本経済新聞 シリア地震発生3カ月、「あらゆる物資不足」復興遠く	

2023年度に実施した各プロジェクトの費用の内訳

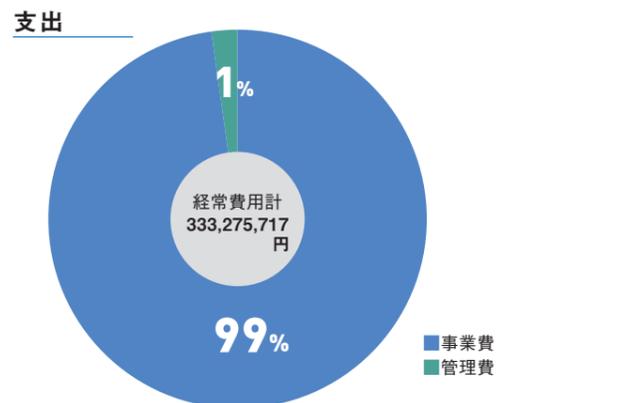
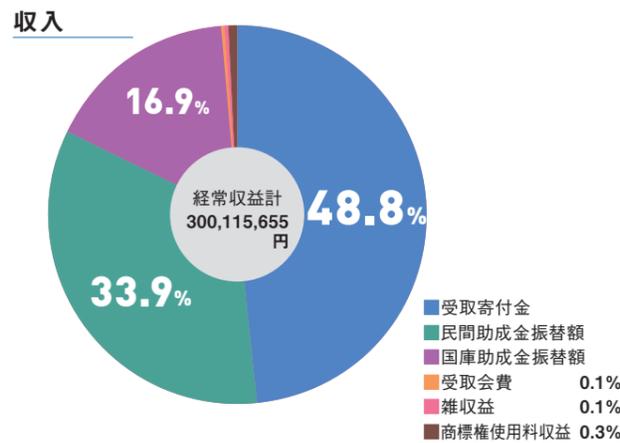


2023年度 財政報告

世界の医療団は、1名の監事による会計及び業務の内部監査と、監査法人による会計監査を毎年受けています。収入面では、引き続きスマイルクラブによるご支援をいただくとともに、2023年はコロナ禍が明け、対面でのイベントが復活したことにより、イベント寄付金が増えました。支出面では、海外における緊急支援対応によりミッション経費が47%増となりました。

正味財産増減計算書 (2023年1月1日～2023年12月31日)

科目	金額
I. 一般正味財産増減の部	
1 経常増減の部	
(1) 経常収益	
① 受取寄付金	146,318,133
キャンペーン寄付金	26,875,297
スマイルクラブ寄付金	91,039,043
イベント寄付金	6,500,000
その他寄付金	21,903,793
② 受取補助金等	152,336,209
民間助成金振替額	101,605,745
国庫助成金振替額	50,730,464
③ 受取会費	200,000
正会員受取会費	200,000
④ 雑収益	359,813
受取利息	624
雑収益(謝礼・足代・為替差益)	359,189
⑤ 商標権使用料収益	901,500
商標権使用料収益	901,500
経常収益計	300,115,655



科目	金額
(2) 経常費用	
① 事業費	329,104,796
人件費	47,996,813
旅費交通費	3,491,696
通信費	1,430,307
イベント経費	2,772,520
ミッション経費	224,887,088
事務用品費	1,468,854
支払報酬	1,832,532
リース料	309,855
保険料	630,753
業務委託費	28,310,356
広告宣伝費	2,004,750
支払手数料	5,744,911
地代家賃	6,170,353
水道光熱費	273,297
車両費	149,457
減価償却費	142,693
参加費	303,271
諸会費	1,133,248
雑費	52,042
② 管理費	4,170,921
人件費	2,623,052
旅費交通費	185,535
通信費	42,813
事務用品費	110,842
リース料	10,905
保険料	954
業務委託費	625,647
支払手数料	125,939
地代家賃	96,397
水道光熱費	5,428
減価償却費	5,329
諸会費	36,682
支払報酬	30,148
雑費	201,250
その他(住民税)	70,000
経常費用計	333,275,717
当期経常増減額	△ 33,160,062
2 経常外増減の部	
(1) 経常外収益	
前期損益修正益	303,206
経常外収益計	303,206
(2) 経常外費用	
前期損益修正損	92,133
経常外費用計	92,133
当期経常外増減額	211,073
当期一般正味財産増減額	△ 32,948,989
一般正味財産期首残高	128,093,793
一般正味財産期末残高	95,144,804
II. 指定正味財産増減の部	
受取補助金等	150,250,687
一般正味財産への振替額	152,336,209
当期指定正味財産増減額	△ 2,085,522
指定正味財産期首残高	2,085,522
指定正味財産期末残高	0
III. 正味財産期末残高	95,144,804

貸借対照表 (2023年12月31日現在)

科目	金額
I. 資産の部	
1. 流動資産	
現金預金	225,287,954
貯蔵品	203,077
未収入金	11,138,577
前払費用	1,604,364
前渡金	30,412,249
仮払金	3,227,627
流動資産合計	271,873,848
2. 固定資産	
(1) 特定資産	
医療支援活動指定積立資産	0
特定資産合計	0
(2) その他固定資産	
① 有形固定資産	13,988
建物	1
機械装置	1
車両運搬具	1
什器備品	13,985
一括償却資産	0
② 無形固定資産	260,338
ソフトウェア	260,338
③ 投資その他の資産	847,250
敷金	740,000
長期前払費用	107,250
その他固定資産合計	1,121,576
固定資産合計	1,121,576
資産合計	272,995,424

科目	金額
II. 負債の部	
1. 流動負債	
未払金	36,239,406
未払費用	21,657,485
前受金	118,917,654
預り金	966,075
仮受金	0
未払住民税	70,000
流動負債合計	177,850,620
負債合計	177,850,620
III. 正味財産の部	
1. 指定正味財産	
民間助成金	0
指定正味財産合計	0
(うち基本財産への充当額)	(0)
(うち特定資産への充当額)	(0)
2. 一般正味財産	95,144,804
(うち基本財産への充当額)	(0)
(うち特定資産への充当額)	(0)
正味財産合計	95,144,804
負債及び正味財産合計	272,995,424

独立監査人の監査報告書(抜粋)



支援して下さる人びと

- ◆寄付者 **5,488人** (法人129団体)
- うちマンスリーサポーター **3,668人**
- ◆会員 **39人**

- ◆Facebookフォロワー数 **4,780人** (2%増※)
- ◆Twitterフォロワー数 **6,071人** (3%増※)
- ◆Instagramフォロワー数 **1,077人** (34%増※)

※前年同月比 2023年12月末現在

●支援者からのメッセージ

医療がなかなか届かない土地に出向く医療活動に感銘を受けます。トルコ・シリア地震でもご尽力を宜しくお願い致します。

ガザのこと、胸が痛みます。少しでも使ってください。

困難な状況の方々を治療、サポートなさっている世界の医療団の方々。心から感謝申し上げます。

ご協力いただいた企業・団体

2023年度にご支援をいただきましたすべての法人・企業のみなさまに対し、改めましてお礼申し上げます。

◆パートナー(五十音順・敬称略)

アサヒブリック(株) / アニエスペースジャパン(株) / アメリカン・エクスプレス・インターナショナル・インコーポレイテッド / いちよし証券(株) / (公財)ウェスレー財団 / (株)エイベックスインターナショナル / エーツケア(株) / エドワーズライフサイエンス(株) / オリンパス(株) / (有)アート・エミュウ / (株)クニエ / (株)グリーンテック / KUROFUN&PARTNERS(株) / (一財)ザ・ブラフ・クリニック / (特非)ジャパン・プラットフォーム / 小豆島ヘルシーランド(株) / (株)湘南ベルマーレ / 住信SBIネット銀行(株) / ソフトバンク(株) / NIKOLA TESLA.K.K / (株)バリューブックス / (株)フェリシモ / ヤフー(株) / 楽天銀行(株) / リンベル(株) / 連合愛のキャンパ

(物品サービス) エクスコムグローバル(株) / パナソニック株式会社 / (株)モンベル

(イベント協力) 戸室玄 / フランス農事功労章協会 / フランス料理文化センター

(プロボノ) 小石和男 / 小林意匠研究所 / 斎藤順子 / 東京西法律事務所 / 長島・大野・常松法律事務所 / 学校法人日本教育財団HAL / ベーカー&マッケンジー法律事務所 / ホワイト&ケース法律事務所 / 水野貴仁

法人パートナー募集

世界の医療団はさまざまな法人・企業と連携して世界各地に医療を届けています。寄付金による支援のほか、コラボ商品による寄付、物品の提供、プロボノなど、多様な協働の方法があります。お問い合わせ：電話03-3585-6436 E-mail info@mdm.or.jp

寄付のご案内

世界の医療団は「認定NPO法人」として東京都より認定されています。世界の医療団へのご寄付は税制上の優遇措置(寄付控除等)を受けることができます。領収書は年間一括で1月下旬に発送します。

毎月の寄付(スマイルクラブ)

継続したご支援により、紛争や自然災害など緊急時でも迅速な対応が可能になります。

ホームページからのお申し込み(クレジットカード利用)▶



単発の寄付

いつでもいくらでも、お気持ちに合わせて寄付できます。

ホームページからのお申し込み(クレジットカード利用)▶



郵便振込による寄付

上記ホームページでのクレジットカード決済以外に、郵便局からお振込みもできます。

郵便振替口座番号：00110-8-172839

郵便振替口座名：特定非営利活動法人メドゥサン・デュ・モンド ジャпон

※通信欄に寄付者の方のお名前、ご住所等ご連絡先を必ずご記入ください

遺贈・相続財産・お香典からの寄付

詳細資料をお送りします。事務局までお問い合わせください。

お問い合わせ・資料請求 電話 03-3585-6436 E-mail: leg@mdm.or.jp

◆その他にもさまざまな寄付を受け付けています。詳しくはホームページをご覧ください。



世界の医療団とSDGs(持続可能な開発目標)

世界の医療団の活動は、SDGsが目指す「誰一人取り残さない(leave no one behind)」社会の実現に貢献しています。

